



芝山小だより



11月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

「ふれあい月間」

生活指導主任

東京都では毎年6月、11月をふれあい（いじめ防止強化）月間として、いじめを未然に防止し、子供たちの健全育成を目指して取り組みを行っています。芝山小学校では2月もふれあい月間を設定しています。代表委員会による挨拶運動、5年生とスクールカウンセラーとの全員面談、生活アンケートの実施、いじめや人権問題に特化した道徳授業など様々な取り組みをしています。

前回6月のアンケートを分析すると、ほとんどの児童が楽しく学校生活を過ごせていることが分かり安心しました。困ったときには誰かに相談し、相談する相手も身近にいると回答した児童も多く、悩みの対処法を知っている様子がうかがえました。しかし一方で、学年が上がるにつれて「イライラすることがよくある」という児童が増えているのが気になります。また、嫌なことがあっても「やめて」と自分から言えない児童も何名かいました。「学校が楽しくない」「学校の勉強がわからない」と、自分に自信が持てない児童に「相談する相手がいない」「イライラすることがよくある」と回答している傾向が見られました。また、「〇〇さんに〇〇されていやだった」「〇〇と言われて悲しかった」などの回答に対して、詳しく相手側に聞いてみたところ、「嫌な思いをしているとは思わなかった」「嫌がっていたのに気が付かなかった」というケースがありました。相手の気持ちを想像して行動することが十分に身に付いていないために、トラブルにつながっているようです。相手を怒らせてしまう強い口調や乱暴な言葉、相手の主張を全否定する態度をとってしまう児童の中には、なぜ相手が傷つくのかが理解できないという児童もいました。テレビタレントや動画配信者の影響もうかがえ、有名人がやっている行動なので許容されると感じているのかもしれません。相手のことを考えて行動できる大人に育つように、社会全体で考えていかなければいけない問題だと感じました。

芝山小では日ごろから教職員が一丸となり、児童の些細な変化に気付き、情報を共有できる体制を整えています。小さなトラブルから「いじめ」や「不登校」に発展しないよう、子どもの心に寄り添いながら解決に向かうように努めています。

11月は2回目のふれあい月間です。6月の取り組みを受けて、様々な教育活動の中で自己肯定感を向上させる取り組みをしたり、相手の気持ちを考えた言動ができるようにさせたりすることを強化していこうと考えています。家庭、地域と連携しながら芝山小学校の全ての児童が安心して学べる学校を目指しています。今後ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。